

令和元年6月10日現在

機関番号：12613

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12942

研究課題名(和文) 商人・難民ディアスポラと近世社会：トランシルヴァニアのブルガリア人とアルメニア人

研究課題名(英文) Merchant-Diaspora and Early Modern European Society: Bulgarians and Armenians in Transylvania

研究代表者

秋山 晋吾 (Akiyama, Shingo)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：50466421

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、17世紀末にトランシルヴァニア(現ルーマニア)に定着したカトリック・ブルガリア人およびアルメニア人のコミュニティに関する文書史料を、おもにルーマニアのアルバ＝ユリアの文書館およびハンガリーのブダペシュトの文書館において調査・収集・分析することを目指した。その結果、移民の定住に関連する特許状、移民・在地社会双方からの嘆願書、裁判記録、土地所有関連文書、出生・婚姻・死亡・改宗に関する教区簿冊等から成ることが明らかになり、これらの分析から、18世紀を通じた移民集団への社会的まなざしの変化の様相が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバルな移動に対する社会的な関心が高まる中、移民集団の定着と他の人間集団との摩擦と融合の実態を歴史的に明らかにするため、歴史資料の残存状況の確認からその分析までの基礎的な研究を行った。これにより、移民・ディアスポラの歴史的・地理的な比較研究の材料を用意することができたという学術的意義があると同時に、グローバル社会における移民をめぐる環境整備という今日的な課題に対する考察材料を提供するという社会的な意義も持つ研究である。

研究成果の概要(英文)：This research analyses historical documents related to the diaspora communities of Catholic Bulgarians and Armenians in Transylvania (Romania), who settled down at the end of the seventeenth century. Based on the documents that found at the archives of Alba Iulia and Budapest, charters of privileges, petitions, trial records, land registers, parish registers on birth, marriage and burial, it makes clear that throughout the eighteenth century the Transylvanian social gaze to the immigrant communities transformed unclear one to definite, distinguishable one.

研究分野：歴史学

キーワード：ブルガリア人 ディアスポラ アルメニア人

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

現代世界および歴史上の人間の移動と離散のもつ重要性は、「ディアスポラ」概念の活性化などを通じて注目され、「外来の」「異質な」人間集団が担う独特の役割やこれらの集団が受入社会と取り結ぶ関係(差異化と同化の力学)は、社会の存立と機能の根幹に関わるものとの認識が広く共有されつつある。近世ヨーロッパに関して、すでに分厚い研究蓄積のあるユダヤ人だけでなく、ムスリムや正教徒などの異教・異宗派移民、大陸・地中海の商人集団、戦乱による難民など、多様な移民・ディアスポラに関する個別研究が現れている。本研究は、こうした移民史・ディアスポラ史研究の高まりを受けたものであると同時に、トランシルヴァニアという、近世ヨーロッパ社会・国制を特徴づける複合的・社会的性格を顕著に有し、かつ多様な外来集団を包摂していた社会(近世のトランシルヴァニアは、国政上の権利をハンガリー人、セーケイ人、ザクセン人がもち、その下にルーマニア人農奴が位置づけられる複合的な国制を有したが、17-18世紀にさらに、商業活動、戦乱、宗教弾圧、農業入植などを原因に、スロヴァキア人、シュヴァーベン人、ユダヤ人など多様な移民集団が到来した)を対象とすることで、移民・ディアスポラのもつ近世的意味(近世型ディアスポラの特徴)を明らかにすることを通じて、ディアスポラ研究の深化を目指した。

### 2. 研究の目的

本研究は、17世紀末にトランシルヴァニア(現ルーマニア西北部)に到来し、独自のコミュニティを形成したアルメニア人とブルガリア人を主な対象として、近世ヨーロッパにおけるディアスポラと在地社会の関係性を明らかにすること、また、それを解明するための文書館所蔵史料の全体像を把握することを目的とした。近世の身分制的・社会的社会編成の中では、外来の人間集団も、一義的には「マジョリティ」に対する「マイノリティ」としてではなく、多種多様な集団から成る非均質な社会における「一集団」として位置づけられる。近現代の均質な/均質化する社会(市民社会・国民社会)における外来集団の位置づけとは異なる、移民・ディアスポラのこの近世的性格を、この時代のヨーロッパで最も顕著な多文化・多宗派性を帯びた社会・国制を有したトランシルヴァニアを事例に明らかにすることを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、ハンガリーとルーマニアの文書館における文書史料調査とその分析を主とし、あわせて、ハンガリー・ルーマニア・ブルガリアにおけるフィールド調査も行った。史料収集・分析を行った主な文書館は、ハンガリー国立文書館(ハンガリー・ブダペシュト)、ローマ・カトリック教会ジュラフェールヴァール大司教区文書館(ルーマニア・アルバ=ユリア)、カルヴァン派教会トランシルヴァニア管区文書館(ルーマニア・クルージュ=ナポカ)。本研究期間中に行った文書館調査においては史料のデジタル撮影を行い、約7,500枚の史料をデジタルデータ化した。フィールド調査は、ルーマニアのクルージュ県、ムレシュ県、アルバ県の村落、および、カラファト市、トゥルヌ=セヴェリン市、ブルガリアのチプロフツィ村、ヴィディン市、セルビアのザイエチャル市などで行った。

### 4. 研究成果

本研究が目的としたトランシルヴァニアの近世社会とディアスポラ諸集団の関係性の解明にあたって、研究期間中に得られた成果は、1)ルーマニアおよびハンガリーの文書館に所蔵される関連文書の実態解明、2)ブルガリア・ルーマニア・ハンガリーおよびセルビアにおけるディアスポラ集団の移動に関するフィールド調査、歴史・民俗博物館での展示状況の整理、3)本研究の挑戦的萌芽研究としての位置づけから本格的な共同研究への接続と社会発信の3つの面に分けて、以下のように整理することができる。

1)ハンガリー・ルーマニアの文書館所蔵ディアスポラ関連文書の収集・整理と分析:本研究で主に実態解明を進めたのは、ローマ・カトリック教会ジュラフェールヴァール大司教区文書館(ルーマニア・アルバ=ユリア)に収められたアルヴィンツ所領関連文書、および、ハンガリー国立文書館(ハンガリー・ブダペシュト)所蔵のハンガリー総督府放浪民関連文書である。アルヴィンツ所領関連文書は、本研究に先立つ予備調査の段階から収集を進め、本研究の研究期間中は主にその整理と内容分析を進めた。17世紀末にトランシルヴァニアに定住したカトリック・ブルガリア人と在地社会に関する文書が計25箱に上る分量で所蔵されている。内容の整理の結果、ブルガリア人定住に関連する特許状、ブルガリア人・在地社会双方からの嘆願書、裁判記録、土地所有関連文書、出生・婚姻・死亡・改宗に関する教区簿冊等から成ることが明らかになった。また、放浪民関連文書は、18世紀初頭から1780年代までのハンガリー王国に到来した「外来者・放浪者」に関する文書21箱である。収集・整理を進めることで、王国・県・都市当局による法令・報告書類、外来者調査名簿、外来者に対する取り調べ記録と押収所持品などから成ることが明らかになった。本研究で分析を進めたこれら2系統の文書群により、ハンガリー・トランシルヴァニアの国家・地方諸権力レベルにおいて、18世紀を通じて外来者集団・ディアスポラ集団に対する政策の明確化と、政策対象としての外来者の把握の試みの進展(調査の実施、文書・報告の集積の本格化)が起こり、それに伴い在地社会の諸集団が外来者に向ける視線・認識が「他者」としての把握へと明確化して行ったプロセスが浮かび上った。

た。また、アルヴィンツ所領関連文書からは、難民ディアスポラ集団と在地社会の関係性だけでなく、同じ村に到来時期を異にして定住していた他のディアスポラ集団（ドイツ・ボヘミアの宗教弾圧を逃れて来たプロテスタント信徒集団）との関係性の一端を示す史料を発見することができた。移民・難民研究において注目されている移民定住地における移民諸集団相互の関係を解明する材料が、近世の中央ヨーロッパにおいても存在することが明らかになったことで、時間的空間的な比較研究の可能性を拡大するものである。

これらの成果の一部は、本研究期間中、「近世東欧の交易ネットワークとその担い手たち 18世紀ハンガリーとバルカン商人」（雑誌論文 および学会報告）、「18世紀中期ハンガリーの「ギリシア商人」居住地分布 1755年調査記録から」（図書 所収）『姦通裁判 18世紀トランシルヴァニアの村の世界』（図書）、「取り締まられる他者たち 18世紀中葉ハンガリーの「放浪民」」（学会報告）において発表した。雑誌論文・学会報告と図書 所収論文は、中央ヨーロッパへのバルカン商人渡来の数量的分析を主に行い、移動する人間集団の文書館史料に基づく復元の可能性を検証すると同時に、諸集団の全体像を提示することを試みた。図書 は、本研究の対象であるトランシルヴァニアのアルメニア人ディアスポラの都市住民と周辺村落の住民の関係の一端を、社会史研究入門として発表したものである。これは、社会史の研究が、文書館史料をはじめとするいわゆる一次史料群をどのように読みこみ、それらの史料から読み取ることのできることでできないことを峻別しながら構築されていくかを、専門家以外の一般読者向けに提示したものである。学会報告 は、ハンガリー国立文書館放浪民関連文書群の概要分析である。

2) フィールド調査・博物館調査：本研究において、文書館史料の収集・分析と合わせて、ディアスポラの出身地域から移動ルート上の地域のフィールド調査・博物館展示調査を行った。重点的に行ったのは、近世トランシルヴァニアに到来したカトリック・ブルガリア人集団の出身地であるブルガリア・チプロフツィ村とその周辺諸村落である。17世紀に東西交易の拠点として栄え、ブルガリア・カトリック教会の司教座も置かれたチプロフツィは、17世紀末のハンガリー・オスマン戦争のなかで略奪され荒廃し、有力商人の多くがトランシルヴァニアへ難民として流出した。現在、チプロフツィ村では、村はずれに残されたかつての司教座教会の遺跡を介したカトリック商人の記憶と、この村を中心とする地方の民俗集団（トルラク）の記憶が融合しつつ伝承・展示されていることが明らかになった。また、難民となったカトリック・ブルガリア人の北への避難ルートに当たるブルガリア・ヴィディン、ルーマニア・カラファト、トゥルヌ＝セヴェリン、セルビア・ザイエチャルにおいても、ドナウ川をはさんだ移民・難民の流動の様態が、歴史・民俗博物館において中心的なコンセプトとなっていることが確認できた。これらの調査の成果については、3)で言及する本研究の継承研究の成果と合わせて公表する予定である。

3) 本研究は、挑戦的萌芽研究として研究蓄積の乏しいハンガリー・ルーマニアの文書館における近世ディアスポラ関連文書の収集・整理・分析を中心に進め、本研究単体の成果を発信すると同時に、発展的な研究プロジェクトに接続していくことも目指した。当初、本研究は2015-17年の3年間の計画であったが、研究の進展を受けて、当初予定最終年度（2017年度）から関連する2つの科研費プロジェクトの立ち上げに寄与することができた。「近世・近代のヴラフ人の移動と集団形成に関する基礎的研究：バルカン・中欧・新大陸」（基盤研究B：研究代表者・秋山晋吾）および、「近世ユーラシアにおける宗教・交易ネットワークとアルメニア人」（基盤研究B：研究代表者・守川知子東京大学准教授、研究分担者：秋山晋吾ほか）である。前者は、近世以降、ハンガリーをはじめとする中央ヨーロッパに継続的に移住し、中欧・バルカンの商業ネットワークの主要な担い手となったヴラフ人の移動と在地社会との関係史を、研究分担者・研究協力者あわせ8名で解明するプロジェクトであり、後者は、近世にイランから東地中海を経てトランシルヴァニアに及び商業ネットワークを構築したアルメニア商人に関する共同研究プロジェクトである。本研究は、これら継承プロジェクトとの円滑な接続のため、2018年度まで1年間の研究期間延長を行った。本研究の目的であったトランシルヴァニアのアルメニア人ディアスポラの史的分析、2)で言及したフィールド調査の成果は、これらの研究プロジェクトに有機的に結合されて、公開される予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

秋山晋吾「近世東欧の交易ネットワークとその担い手たち 18世紀ハンガリーとバルカン商人」『東欧史研究』38号、2016年、67-72頁、査読無し。

〔学会発表〕(計 2 件)

秋山晋吾「取り締まられる他者たち 18世紀中葉ハンガリーの「放浪民」」東欧史研究会2015年度第4回例会「東中欧・バルカン諸国における移動と地域の形成」、2015年12月5日、大正大学（東京都豊島区）

秋山晋吾「近世東欧の交易ネットワークとその担い手たち 18世紀ハンガリーのバルカン商

人」東欧史研究会 2015 年度大会シンポジウム「東欧史におけるネットワーク」、2015 年 4 月 25 日、大正大学（東京都豊島区）

〔図書〕(計 3 件)

秋山晋吾『姦通裁判 18 世紀トランシルヴァニアの村の世界』講談社（星海社新書）2018 年、285 頁。

羽場久美子編『ハンガリーを知るための 60 章 第 2 版』明石書店、2018 年、372 頁（担当：秋山晋吾「三分割の時代からハプスブルクの時代へ 混乱と豊穡の近世」37-41 頁）

山本明代、パプ・ノルベルト編、秋山晋吾、デーネシュ・ショクチェヴィチ、キタニチ・マーター、木村真、百瀬亮司、ビーロー・ラースロー、レマーニ・ペーテル、山崎信一著『移動がつくる東中欧・バルカン史』刀水書房、2017 年 337 頁（担当：秋山晋吾「18 世紀中期ハンガリーの「ギリシア商人」居住地分布 1755 年調査記録から」(119-140 頁)。

〔その他〕

ホームページ等

秋山晋吾研究室ホームページ <http://www.soc.hit-u.ac.jp/~akiyama/>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。